

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果について

4月20日（月）、23日（木）、30日（木）に実施された全国学力・学習状況調査のすべての結果が9月に出ました。その結果をまとめ、山手中学校80回生の傾向を国語科、数学科、英語科の教師で分析をしました。また、生徒質問の結果に関しては、3年生の教師でその分析を行いましたので報告させていただきます。

1 学力について

【国語科】

おおむね、全国・兵庫県平均と同等程度の正答率であった。ただ、平均を上回っている項目は少ない。「読むこと」の分野が全国平均を上回っていることから、文章の構成や内容を捉えることは比較的できていると考えられる。しかし、「書くこと」の分野は全国平均から下回っている。記述式の問題形式も正答率は下回っており、無答率も高いため、文章を書くことに抵抗感があるのかもしれない。自分の考えをもち、それを文章に表現する力を伸ばすことが今後の課題と考えられる。

【数学科】

全体の平均正答率を見ると、全国・兵庫県平均を少し下回っている。「数と式」の平均得点率を見ると、本校の正答率と全国・兵庫県平均との間では大きな差は見られない。また、「関数」の平均得点率を見ると、全国・兵庫県平均を超えていることから、問題を解くうえで欠かせない計算力はおおむね身に付いており、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図られていると考えられる。一方で、「図形」や「データの活用」においては、全国・兵庫県平均を下回っており、角度を問われる問題や度数分布表の読み取りを要する問題でつまずく生徒が見られる。今後は、既習内容の定着を図るとともに、実生活に関連した身近な問題を取り上げるなど、数学的な見方・考え方を働かせる学習活動の充実に取り組んでいきたい。

【英語科】

全国・兵庫県平均と比べると、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の領域においては平均を僅かに下回っているが、「話すこと」においては同程度の正答数であった。「聞くこと」「読むこと」では、解答の選択肢がイラストや単語または短い英文の問題では正答率が高いが、少し長めの英文や時系列にイラストを並べる問題になると正答率が低い傾向が見られた。英文からキーワードは見つけられるものの、話全体の概要や要点などの内容理解は浅いと考えられる。また、「書くこと」「話すこと」では、質問に答える問題には取り組めるが、理由や感想などを答える問題には取り組めていない傾向が強く見られた。このことから、英語での簡単なやりとりはできるが、自分の意見を表現することに苦手意識を持っていることがうかがえる。基本文法を活用し、「読むこと」「書くこと」「話すこと」に発展させていくことが今後の課題と考える。そのために、授業では長文読解や英作文、スモールトークへの取組を強化させていきたい。

2 生徒質問の結果と今後の課題

＜生活面＞

○1日あたりのスマートフォン等の利用時間が3時間以上の生徒が約6割、2時間以上の生徒になると8割以上になっている。これは、全国・兵庫県平均と比べて多いことから、本校の生徒はスマートフォン等の利用時間が長いことが分かった。

○「学校の勉強のことや、学校での悩みについて、親や家族と話をしている」と答えた生徒の割合が、全国・兵庫県平均より多く、家庭で学校の話をしている生徒が多いことが分かった。

○「教師が自分の良いところを認めてくれると感じている」、「困りごとがあるときには教師や学校の大人に相談できる」と答えた生徒の割合が、いずれも全国・兵庫県平均と比べて多かったことから、日頃からのコミュニケーションが図れており、相談できる環境が構築できていると考えられる。

＜学習面＞

○「学級での話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたり、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めたりすることができているか」という質問に対しては、いずれも「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の回答が全国・兵庫県平均より多かったことから、人との交流の中で学ぶことの楽しさや課題解決を図ることができていることが分かる。これは、道徳授業の中でもできていると実感する生徒が多いことが調査結果から分かった。

○授業の中で、「自分の考えを発表する機会では、うまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表できたか」、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」という質問に対しては、いずれも「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の回答が全国・兵庫県平均より低かった。このことから、自分の考えをまとめ、それを発表する力（プレゼンテーション能力）の向上を図る必要性があることが分かった。

○家庭学習において、1日あたり「平日2時間以上」「休日3時間以上」の生徒の割合は、全国・兵庫県平均より多かったが、「全くしない」生徒の割合も全国・兵庫県平均より多かったことから、二極化が見られた。

＜対策＞

授業の中で、インプットができている生徒は多いが、アウトプットを苦手としている生徒が多いことが分かった。授業内容が「自分に合っていた」と実感している生徒が多くいたことは、生徒の「分かる」「できる」という達成感や成功体験につながっていると考えられるが、「分かったつもり」「できたつもり」で止まっており、定着のためのアウトプット練習や演習時間が不足している可能性がある。応用問題や記述問題（思考力・表現力）に結びつけていくためにも、自分の考えを発表する機会を増やし、プレゼンテーション能力の育成を図る授業づくりをしていきたい。